

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 令和元年10月1日 No.13



3回続けてティーチャーズ・トレーニングを学んできました。子どもたちの「好ましくない行動」には無反応で、「好ましい行動」にはたくさんほめることができるようになってきたのでしょうか？

今回はティーチャーズ・トレーニングの最終回で、「効果的な指示の出し方」について学びます。

参考図書として『保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング』『発達障害のペアレント・トレーニング』（どちらも中央法規発行）を使っています。

特集 ティーチャーズ・トレーニングを学ぶ④

1. やるべきことを伝えよう

「好ましくない行動」に対して、教員が無反応で接し、「好ましい行動」が起こるのを待っても、なかなか次の行動が見られないことがあります。そのような時には具体的に指示を出します。指示を出すときに大切なのは「CCQ」というものです。

<u>C</u> alm (カーム)	穏やかに
<u>C</u> lose (クローズ)	子どもに近づいて
<u>Q</u> uiet (クワイエット)	静かに



イライラした表情や怒っているような顔で子どもに接したり、遠くから声だけで指示したり、怒鳴るような大きな声で指示をすると、余計なことまで言ってしまい、「好ましくない行動」に注目することになりがちです。「CCQ」を意識して子どもに指示を出すと、やるべきことが伝わりやすくなります。

指示を出すコツとして次の4つがあります。

- ① 子どもの名前を呼んで、注意喚起をする。
- ② 近づいて視線を合わせる。
- ③ 短く、具体的に指示を出す。
- ④ 指示に応じて行動をしようとしたら、すぐにほめる。

わかりにくい指示

「今、何する時？」「ちゃんとやって」「いい加減にして」

具体的な指示

「帰りの支度をする時間だよ」
「鉛筆を出して書きましょう」
「廊下に並びます」

2. 一度で指示に応じられない時は

一度で指示通りの行動が見られないと、初めは「CCQ」を意識して指示を出していても段々イライラしてしまいます。そのような時は、「好ましくない行動」と同じように、少し無反応で様子を見ます。「好ましい行動」をしている周囲の子どもに対し「あ、〇〇さんは、もう授業の準備ができたんだね。すごいなあ。」と声をかけ、間接的に誘ってみます。少し時間を空けてから、再び指示を出してみます。

しかし、それでも指示に応じられないことはよくあると思います。そのような時には、次のような方法を試してみてください。

- ① 「あと〇分したら、〇〇を始めます」など、やることを予め伝える。切り替えがあまり得意ではない子どもは急に指示をされても応じられないことがある。予め伝えることで、気持ちの余裕を持たせるようにする。
- ② 時間や回数で活動を区切る。「あと3回やったら教室に戻ります」「タイマーが鳴ったら〇〇を始めます」などで、切り替えのきっかけを作る。大人から言葉で言われるよりも、タイマーが鳴ることで、あきらめがつく子どももいる。
- ③ 選択肢を用意する。この時の選択肢は「やる・やらない」ではなく、最終的にはやるのだが「〇〇を最初にやる？△△が終わったらやる？」や、「ひとりで〇〇やる？先生と一緒にやる？」などのようにやり方を選択できるようにする。選べなかったら「じゃあ、先生が選んじゃうよ。最初は△△、その次に〇〇をやろう」と伝える。
- ④ ③に似ているが、なかなかやりたがらない苦手な活動だった場合は「〇〇が終わったら、今日はお昼にみんなで△△やろうか？楽しみだね」とやる気が出てくるような誘いをする。この際の注意は「〇〇しないと、△△はできないからね」という声かけはしないことである。期待を持たせるはずが、罰を与えるような声かけになってしまう。

3. ティーチャーズ・トレーニングの難しさ

ここが難しい1 無反応が難しい

否定的な注目を与えないために、「好ましくない行動」に対して無反応で接していこう、と指導方針を変えたとします。今までは、机をガンガン蹴ったり、「うるせーなあ」と言うと、先生がいろいろ応じてくれていたことがなくなります。すると子どもは余計激しく机を蹴ったり、授業中に歌を歌ったり、あらゆる方法で先生を呼ぶような行動をします。先生が無反応を決めても、周りの友だちが放っておかないこともあります。ここが一番つらいところです。

初めは「〇〇さんが、自分で気持ちが切り替えられるといいなあ」など独り言のように言い、それとなく友だちにも聞こえるように伝えていきます。友だちが「自分一人でやらなくちゃいけないんだよ」と注意してしまうことがあった時には「大丈夫だよ。できるもんね」と声をかけ、その子どもには後で「いつも心配してくれてありがとう。先生は〇〇さんが一人でできると思うから待っているの。きつとあなたは〇〇さんのお手本になると思うから、いいところを見せるようにしてね」と協力を促すようにします。



ここが難しい2 共通理解が難しい

いろいろな考え方の先生がいます。「何でその場で注意しないんだ」「周りの子どもたちの迷惑だ」「指導放棄だ」などと思われてしまうのではと、心配をすることもあるかもしれません。

教員間で指導方針を確認します。「今まで注意していたけれど、かえって行動がエスカレートしてきている」「大きな声で注意をすると、自分自身がイライラしてしまう」など、今までの経緯を説明します。その上で、「子どもの存在を否定しているわけではない」を前提に、「望ましくない行動」を少なくするために、反応しないかわりをしていることを説明します。また、他の先生方のかかわり方もある程度そろえておくと、学校全体として一貫したかわりができるようになります。

